

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270101619		
法人名	有限会社ハーモニー		
事業所名	グループホームハーモニーそが		
所在地	千葉市中央区蘇我4-22-11		
自己評価作成日	令和6年3月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<input type="checkbox"/> 個々の生活を尊重し、自由に過ごせる様安全に気を配りながら、支援しています。 <input type="checkbox"/> 外気の空気にふれながら、散歩に出かけ気分転換し、四季折々の移り変わりを楽しんでいます。 <input type="checkbox"/> 地域との交流を少しずつ再開しています。
--

※事業所の基本情報は、公一宮町主催の福祉フェスティバルへ参加を予定していたが、新型コロナウイルス【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本情報リンク先	https://www.harmonysoga.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和6年3月27日		

施設は、JR蘇我駅から車で5分ほどの閑静な新興住宅街に位置し、グループホーム専用にて建てられた平屋建てのホームには各居室の中央に明るく落ち着きのある広いリビングがあり、全入居者が一家族のように楽しく暮らしている。この広いホールにはカラオケ設備も常設されており、コロナ以前は地域の住民との交流の場として活用されてきた。また、南に隣接するテラスやミニ菜園などもあり、コロナ禍での家族との面会の場としても活用されている(コロナ禍の現在は、ボランティアの受け入れや地域との交流は控えている。)。また、川や公園が近隣に位置しており、散歩を楽しみながらの家族との面会もおすすりとなっている。インターネット研修や介護記録ソフトの導入など業務のIT化にも積極的に取り組んでおり、LINE通信などを通して利用者が家庭的な雰囲気の中で安心して生活している様子を家族に届けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議、申し送り、日々の会話等で理念に基づいた入居者支援を行えるように、職員に指導を行っています。	ホールに掲示した理念を全体会議や朝の申し送り時に唱和しており、その理念のもと入居者一人ひとりを大切にして施設のスケジュールに無理に合わせず、モップふき、洗濯、お盆・テーブル拭きなど家事と一緒にするなど入居者の能力を活かしながら、職員と利用者一体となり家族的な雰囲気の中で支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに出来る限り参加し、ホームのイベントには、町会長始め、民生委員・近隣の住民に声をかけ参加して頂いています。	地域イベントへの参加やホールを活用した地域住民とのカラオケ大会など、新型コロナ流行以前は積極的に交流を深めてきた。現在自粛中ではあるが、近隣町内役員会との連携は取れており、近隣住民も気軽に声掛けしてくれている。また、以前は3～4名のリーダーによる定期開催の「いきいき体操」も外部からリーダーを1名招いて、小規模で実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に包括支援センター・町会の役員及び民生委員に参加して頂き、入居者の生活ぶりをお伝えし認知症について理解、支援方法をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター・町会の役員・民生委員・家族に参加して頂き、サービスの実際、評価の報告をし、其々より有用情報や意見頂きサービス向上に努めています。	運営推進会議は、地域包括支援センター、町内会役員、民生委員及び全家族で、年に4回書面にて開催している。事前に「ご意見・ご要望書」を郵送し有用情報や意見等を収集し、生活状況、地域交流、身体拘束やコロナ対策など、施設運営・サービス向上に活かしている。具体例として、家庭ゴミの集積所を当施設の前に移し、地域・当施設共にメリットに繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	インターネットで送信されてくる担当部署よりの情報を確認しています。報告を求められる事に対しては滞ることなく報告をしています。不明な点があれば相談を行っています。	介護保険事業課との連携は密に連絡取れる状況にあり、担当部署からのインターネットでの通知に関しては滞留せずにスムーズに報告等行っている。また、不明な点についてもすぐに相談できる協力体制がとれている。研修などの各種連絡やコロナ感染でのクラスター対策でも非常に積極的な協力を得られた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員は研修等で正しく理解しています。入居者の自由意志を尊重し、自由に行動できるように玄関、居室等の施錠はしていません。	身体拘束廃止委員会は、指針に従って年4回開催し、現状を把握し周知徹底を図っている。また、当施設は、ワンルームのリビングから全居室が見える構造となっており、入居者の自由意志を尊重し自由に行動できるように玄関、居室等の施錠はしていない。県主催の身体拘束に係る研修会には代表者が参加し、受講後に内部伝達を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が高齢者虐待防止関連法について研修を受け、入居者を一人の人として関わる事ができ、虐待が見過ごされていないか常に注意をはらっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、制度の理解はしています。入居者に自立支援・成年後見人をつけている方もいますので、活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項については十分に説明をし、納得して頂いております。解約又は、改正等の際も十分に理解、納得をして頂き不明な点については、その都度お答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症にて運営推進会議の開催が出来ない状態でしたので、書面にて行いました。家族より返答も来ています。昨年は、1回事業所内で開催しています。意見は運営に反映しています。	家族については、来訪時(現在は中止)、運営推進会議、行事参加、電話などで意見・要望を聴いて運営に反映させている。また、全家族とLINEをつないで連絡を取りあい、個別の相談・連絡やイベント・お出かけ状況は写真も入れて素早く配信している。利用者と家族とのビデオ面談もスマホもしくはタブレットで行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議・申し送り等で自由に意見を述べ、ホーム長・管理者はその意見を参考に運営に反映しています。	管理者は、日頃の対応や月1回の全体会議等で意見や要望を聴いて運営に反映させている。またホーム長は職員との面談を年1回行っており、シフト制なので全体会議に全員が集う事が困難となっているので、個別対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職業能力評価制度を導入し、客観的に評価するよう努めております。キャリアコンサルタント制度を導入し、個々に面接を行い向上の啓発を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の外内部研修に職員は積極的に参加したり、毎日の介護の実践にて出来ないところは職員同志教えあい介護力アップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、同業者と交流ができる機会を作り他事業所訪問等の活動を通じて、事業所の向上の取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際し、家族、担当マネジャー等より本人の生活歴、現在の生活状況を聞き取り本人・家族の希望、思いを出来るだけ把握し安心できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、現在家族等が困っていること、不安なこと、要望等を把握して家族等との良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が今必要とされていることを、優先的に対応し、他のサービスについては、相談しながら進めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日常業務を本人と一緒に生活している者同士と考えて出来る事を一緒に行い、共に過ごし支え合う関係でいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と相談しながら、本人の居心地の良い生活に向けて本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の親しくしていたご近所の方、馴染みの方の面会もあります。懐かしい場所へのドライブも行って昔話しに花が咲いている事もあります。	コロナ禍で面会制限はあるものの兄弟等の来訪については、南側に隣接するテラスで面会をしてもらっている。また、医者や美容院、買い物など外出送迎の場合には、馴染みの地域を回ってドライブする場合もあり、利用者には喜ばれている。家族に写真や動画を送るなど、利用者の様子を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を大切にし、職員が中に立ち入居者同志の会話が弾み楽しく過ごせることができるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的ニーズが高まり、入院された方について、家族を通じて様子を伺ったり面会に行ったりして関係性を維持し、経過の把握に努め相談にいつでも応じられるような体制を取っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、希望、意向に耳を傾け、把握に努めています。困難な時は、相談しながら実現出来るところを見つけています。	多弁になって来て夜も徘徊し出す人がいる。この方の帰宅願望が強くなっていることを理解し、薬を遣わずに安心感を取り戻すために家族との面会を検討している。94歳の方で、ベッドの柵に跨り転落した。羽毛の布団が落ちてそれを拾おうとした可能性があるが、今後の対策を検討中。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のこれまでの生活歴の聞き取りをして把握する様にしています。わからない点は、本人・家族より聞き取りを重ねて取っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、精神面、体調面認知症状の進行等現状の把握に常に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議を月1回開催し、入居者について方向性、現状の状態等意見を出し合いそれを介護計画書に生かし、定期的に修正し実現可能な計画書作りを行っています。	全体会議を通して利用者ごとの課題を抽出し、対応が諮られている。利用者のニーズを共有し、適切なケアプランを立てるためにチームの協力が不可欠となる。例えば、トイレ前で転倒、骨折し入院した。退院後もトイレの移動には職員の付き添いが必要となり、オムツの使用を検討している。ホームとしては転倒に一番気を付けており、靴の選択や足元の安定性を考慮し、転倒予防に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケア記録に残し、朝夕の申し送り等利用し、問題点、気づき、工夫は職員間で情報共有しながら行っています。実践や介護計画見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況変化でその時々新しいニーズに対応できるように柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、活用できる場所は使わせて頂き安全で豊かな暮らしを楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診月2回定期的に行っています。以前のかかりつけ医との関係も継続できるように受診の同行を行ったり、連携をとっています。	内科は月2回の往診で管理されているため、入居前のかかりつけ医から診療情報提供書をもらい、ホームの提携医に切り替えている。提携医では、内科以外でも相談に乗ってくれ、皮膚科も診てもらっている。また、週1回の訪問看護師も来訪して主治医との連携が取られ、24時間オンコール体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医療機関の看護師、訪問看護週1回来られ体調異変に早期に気づき、適切な医療が受けられるようご家族と相談しながら方向性を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族と共に職員が付添い、本人の情報を医師に伝え初期診断に役立てて頂いています。カンファレンスには、同席し情報交換・相談し状態把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年1回重度化・終末期に関しての話し合いを往診医を交え行っています。そのような場面が訪れた時は、早期に相談を始め、本人・家族の気持ちに添えるよう話し合いを重ねています。チームで支援できるようにしています。	今年度看取りは1件あった。終末期に当たって主治医に来てもらい、家族・職員に指導を仰いでもらっている。通常、月2回の訪問診療のタイミングで利用者の重度化が判断され、主治医の説明を受けるが、主治医から訪問看護師との連携が始まる。ホームとしては食事が取れなくなるため、飲み物の提供や体位交換、排便・排尿の支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域に協力体制をして頂けるようお願いしています。昼夜想定避難訓練には、地域の方も協力して頂き訓練を行っています。入居者の避難の方法を全職員が身につけるようにしている。	11月に日中を想定した避難訓練が行われ、近所の2名の方も参加された。地域との協力体制はまだ具体的に進んではいないが、普段からのお付き合いが先ず大切なことと考え実行している。事業継続計画(BCP)は昨年、千葉市に提出済み。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけを常に注意した対応をしている。	一人ひとりの尊重という意味からも、頭からダメという否定的な言葉を使うことで相手が委縮してしまうような事を避けるようにしている。そのためには、言い方を軟らかくすることに気を付けている。また、相手が動きやすいような仕掛けづくりに気を配っている。例えば、言葉かけも自己決定できるような持って行き方に注意を払うことにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活に於いて自己決定を重んじ、選択肢を入居者が持つように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースで、希望に添い無理のない支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服は、職員と一緒に自分で選んで頂いています。わかりやすいように整理してありますので、選びやすくしてあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る家事は、職員と一緒にしています。味付けも味見して頂き入居者の好みの味つけにしています。片づけも出来る方はして頂いています。	お願いをすることで、本人の参画意識や存在感を認めることに繋がると考え、それぞれ役割を持ってもらうことにしている。利用者全員が女性であり、味見をしてもらったりして料理の場に参加してもらっている。食材は食料品卸からチルド食の提供を受け、内部で調理をしている。時には、お寿司が食べたいという意見から、お寿司を買ってきて皆で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量に関しては記録し1日のトータル把握をしています。栄養バランスは、管理栄養士が献立をたて、バランスのよい食事になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っています。出来ないところは介助で行うようにしています。月2回訪問歯科が入って口腔内・歯の点検を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表でパターンをわかり、失禁やおむつ使用減らしトイレで気持ち良い排泄や排泄も自立にむけた支援ができるよう配慮している。	I-PADを使った排泄管理表に基づいてトイレ誘導やオムツの交換をするようにしている。多くの人が水分を多めにとっているため、排泄の容量が多くなりがちであることを理解している。オムツの人はオムツ交換ではなくパッド交換をしているが、排泄チェック表が役に立っていることを確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動性や食事に配慮してスムーズに排便ができるよう個々に支援しています。水分量も注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴ですが、入居者は楽しみにしてくれています。その人の希望もあり、個々に添った支援をしています。	入浴を楽しみにしている人が多く、お風呂に早く入りたがる傾向である。季節に応じた入浴として、ゆず湯等の工夫もしている。入浴中は転倒に注意をして滑り止めマットを使用している。湯舟に入れない車いす利用者は、シャワー浴をしてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動性を持たせ、夜間はリラックスして睡眠できるよう心掛けています。良い睡眠がとれるように、室温・寝具等にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の病状を捉え、薬の目的・副作用・用法・用量について理解し、服薬支援をしています。服薬変更時は症状確認を怠りません。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族等より生活歴や好きな事の聴衆をして、楽しく1日を過ごせ、気分転換が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて午前午後散歩に行っています。車で昔懐かしい場所に出向いたり、季節の花を見に行ったりと生活の張りを持たせるように支援しています。	殆どの人が散歩に出ている。おやつを持って、近隣の公園まで足を延ばし、1時間くらいかけて遊んでくることもある。春になると近くにあるおゆみ川の桜並木がきれいで、散歩がてらの桜見物をしている。暖かくなったら花見を兼ねて、ドライブで農業センターまで出かける計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で希望があれば家族と相談し、立替えて購入したり、家族が購入してきたりとしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人にビデオ電話で通話したり手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花を飾ったり、リビングその他は適温でカラオケの音量も耳触りにならないような音量で居心地よく過ごせるように工夫をしている。	季節感を醸し出す上で、代表が自宅に咲いている花を持ってきて飾ることがよくある。庭にはベランダ、家庭菜園もあり、暖かい日には椅子を出しゆったりと外気に触れている。リビングは広く、隅にはカラオケセットが配置され楽しみの一時を過ごしている。コロナ以前は近所の方も来られ、利用者と一緒にカラオケを楽しんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置に配慮し、気の合った者同志が思い思いに居場所ができ、穏やかに生活できるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の部屋は、今まで自宅で使っていた馴染みの家具等を持ち込み、本人が安心して自宅で過ごしているようにしている。	馴染みの物を持ち込むことで安心感につながっているようであり、記憶が無くなっても自分が使っていたものは理解している。部屋に置かれた写真を見て昔話をすることで、記憶が繋がりが家族の写真であれば、自分には家族がいるのだという安心感にも繋がっている。安全面も含めて、居室内で一人で過ごすよりもリビングで皆と一緒に楽しんでもらうように心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりができることわかることを活かして安全で自立した生活が送れるよう見守りしながら工夫している。		